

令和3年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会

— 目 次 —

土佐厚生会.....	2
障害者支援施設こくふ.....	7
障害者支援施設ステージ桜が丘.....	14
障害者支援施設とさ.....	18
特別養護老人ホーム八流荘.....	25
ホームヘルプステーションやながれ.....	31
小規模多機能型居宅介護事業所南風.....	35
在宅介護支援センターやながれ.....	39
就労継続支援B型事業所ウィール社.....	43
就労継続支援B型事業所カトレア.....	49
就労継続支援B型ワークセンターファースト.....	57
障害者福祉ホームコーポラスこくふ.....	62
相談支援センターアルペジオ.....	66

社会福祉法人土佐厚生会

1 事業の総括

令和3年5月1日、障害者支援施設「ステージ桜が丘」及び小規模多機能型居宅介護事業所「南風」の新築移転事業が無事完了した。「ステージ桜が丘」の移転改築事業は、本会にとって第一種社会福祉事業初となる老朽化改築事業であり、加えて「南風」においては、前所在地が沿岸部で南海トラフ地震の際には最大3～5メートル浸水するとされるなど、早急な高台移転を要する震災対策事業であった。2022.3.11付の高知新聞において、「施設高台移転費用・用地壁」の見出しで県内事業所と共に「南風」も同時掲載されたが、記事の中では、各事業所とも建て替え費用の工面については、補助金とできる限りの内部留保の確保がなければ、移転改築は難しいとされている。

本会にとっては、来年度も引き続き特別養護老人ホーム「八流荘」の改築事業計画が具体的に進められるなど、建て替え費用の工面についても懸案事項となっている。土佐厚生会が目指す「愛情・奉仕・連帯」三つの基準を柱とする会是（経営理念）の実現に向けて、どんな難題に直面しても、常に当事者意識を持ち、解決策を見出し、そして自らがその解決策を実践し、新しい価値を生み出していく自律自責型（自ら考え、自ら行動し、自身に責任をとれる人）の人財育成を図りながら、この後も関係者一同着実に前進をしなければならない。

2 事業報告

(1) 役員、評議員等の活動

ア 役員等の活動は以下のとおり。

活動名	開催日	場所	主たる審議内容
理事会	令和3年6月12日	ちばさんセンター	令和2年度事業報告・決算、令和3年度補正予算、施設改修工事、諸規定変更、評議員会の開催、役員保険料
	令和3年9月18日	ちより街テラス	事業進捗状況、補正予算、工事請負契約、定款変更、諸規定変更、評議員会の開催
	令和3年11月27日	ちより街テラス	事業進捗状況、評議員会の開催
	令和4年3月12日	ちより街テラス	令和4年度事業計画・予算、令和3年度補正予算、施設改修工事、収益事業開始、定款変更、諸規定変更、施設長任免、評議員会の開催
評議員会	令和3年6月26日	ちばさんセンター	令和2年度事業報告・決算、令和3年度補正予算、施設改修工事、理事・監事の選任
	令和3年9月25日	ちより街テラス	事業進捗状況、補正予算、工事請負契約、定款変更
	令和3年12月11日	ちより街テラス	事業進捗状況
	令和4年3月26日	ちより街テラス	令和4年度事業計画、予算、令和3年度補正予算、施設改修工事、収益事業の開始、定款変更、理事の選任
監事	令和3年5月20日 ～5月22日	—	書類監査
	令和3年5月25日	法人本部	法人事業、会計経理について監査

イ 各種会の活動は以下のとおり。

名称	開催日	場所	主たる審議内容
褒賞・懲戒委員会	令和3年11月16日	法人本部	ステージ桜が丘に寄せられた苦情に関する懲戒委員会
	令和4年3月12日	ちより街テラス	各種団体の令和4年度表彰者の推薦選考、本会永年勤続表彰者の選考
業務執行理事会	毎月1回	法人本部	法人内連絡調整、重要案件の調査・審議

(2) 施設機能の強化に取り組む

ア 指導管理の推進

- (ア) 会是に沿った支援ができるようになるため、法人理念、会是の説明を施設単位で実施するため、施設長勉強会で説明する時期、方法等を検討し実施する予定であったが、他の項目を優先し中止とした。しかし、会是マニュアルについては障害者支援施設とさが取り組み作成、実践をした。次年度はそれを基に、接遇と併せて法人全体で取り組む予定である。
- (イ) 事業計画については、昨年度と同じ要領で令和4年1月末までに本部に提出しその後、施設長、担当理事及び本部による聞き取り、内容検討を行った。今年度はさらにそれを基に施設で再検討し修正したものを2月中旬に提出した。
- (ウ) 各施設の状況を把握し指導、監督するための資料として事業計画、人事考課結果、サービス評価は計画書どおり提出されたが、職員満足度及び帰属意識調査は、一部施設でのみ実施した。また、各部署・委員会年間計画書も、生活施設については3月31日までに提出され、4月以降はそれに沿って業務チェックをしていくこととした。各種データ・報告書は前期について、本部指示が抜かり11月以降の理事会、評議員会での報告となった。
- (エ) 業務執行理事の使命と役割について外部講師を招聘し、理事会での勉強会を計画したが、講義内容を絞れず講師への依頼が次年度持越しとなった。また、昨年度から業務執行理事がそれぞれ財務管理、組織管理、人事管理、サービス管理と担当を決め、法人の事業計画を進めており、取り組みが定着してきたので、今後は精度を上げていくこととする。業務執行理事会を毎月開催し、情報交換、一部施設の問題課題の検討などを行った。しかし、ステージ桜が丘の家族からの苦情の件については、施設から相談があったことの対応法の検討にとどまり、根本的な問題の抽出ができず、当該施設の表面的な対策となった。令和4年度は、法人全体の課題ととらえて、改善に取り組んでいく。
- (オ) 施設長の育成強化のため、昨年に引き続き毎月1回施設長の勉強会を開催し、施設長、所長の役割、接遇、事業計画の進捗状況等について、学習や意見交換を行ったが、勉強会の目的がつかめない、活発な意見交換ができないことなどから、計画どおりに進めることができず、次年度持越しとした。

(3) 利用者サービスの向上に取り組む

ア 職員の育成強化

- (ア) 研修体制の構築について、本年度の職員研修は土佐厚生会の事業計画に沿って進めたが、研修委員会が開催できていないため、役割分担ができず業務が偏っていた。OJTの取り組みなどについては、人事考課者研修など毎年行っているものでは

きているが、事例研修等の新たな取り組みは十分できていない。OFFJTの推進は、コロナ禍のため外部研修に限りがあったが、開催された研修については、人選し計画的に参加させることができた。

- (イ) リーダー層の育成については、年2回開催する人事考課者研修で、人事考課の目的等で学習し取り組んできた。また階層別研修でそれぞれの役割と責任また、接遇について研修を実施した。研修実績は以下のとおり。

a 新規採用職員研修

研修名	主な対象	時期
法人基礎研修	新規採用職員（新卒）	4月1日～4月5日

b 階層別研修

(a) 組織性 [主催：高知県福祉人材センター]

研修名	主な対象職員	人数	実施日	研修内容
新任職員研修 ステップ1	1年未満	2	9/24 9/28	福祉の仕事のやりがい、心構え、組織の一員として自分らしく成長するための考え方について学ぶ
新任職員研修 ステップ2		2	12/10 1/11	チームで働く、コミュニケーション・仲間づくり、自ら成長していくための実践の振り返りと目標設定
新任職員研修 ステップ3		2	3/10	1年目の実践と取り組みの振り返りを共有し、後輩職員を迎えるにあたり取り組みたいことを考える
先輩職員研修	2年以上 3年未満	4	10/29	後輩へのかかわり方の基本姿勢を学ぶとともに、それを通じて先輩自身も成長していくためのスキルを学ぶ
中堅職員ファースト ステップ研修	3年以上	6	7/6 12/23	中堅職員の立場と役割を学び、組織の中の立ち位置を認識し、自律的に組織人として成長していくためのスキルを学ぶ
中堅職員 ステップアップ研修	5年以上	12	8/3 10/29	中堅職員に求められる役割と後輩の指導、育成の基本を学び、これまでに振り返る
指導的職員研修	主任 係長等	7	10/5 10/6	チームマネジメントの考え方、指導的職員の役割行動、職場の問題解決、部下の指導・育成の基本知識と実践方法を学ぶ

(b) 専門性 [主催：高知県福祉人材センター]

研修名	主な対象	時期
ケアテーマ別研修	1～4等級の職員	5月～3月
ソーシャルワーク基礎研修	相談援助職の職員	6月又は10月
ソーシャルワーク応用研修	相談援助職の職員	2月～3月
アサーティブコミュニケーション研修	3年以上の職員	9月

C リーダー層の研修 対象職員：4 等級以上の職員

研修概要	主な対象職員	人数	実施日	研修内容
人事考課者研修	4 等級以上役職員	42	10 月 3 月	人事考課の目的、進め方、育成面接の進め方について講義と演習
リーダー育成	4～6 等級役職員	31	8 月	接遇について
リーダー育成	4～6 等級役職員	31	11 月	等級ごとの役割について

d 専門職会

名称	主な対象職員	人数	実施日	対象・趣旨・時期等
サビ管・ケアマネ研修	サビ管 ケアマネ	10	8/26 11/16	それぞれの職種における法或いは組織の中での役割、責任について
サビ管研修会	サビ管	7	12/10 3/10	利用申請から利用開始、それに伴うケア計画作成の作成と手順

e 職場内研修

研修名	内容
ノーリフト研修	職員の腰痛予防、ケアの質の向上を目的に、ノーリフト推進委員が中核となり各ゾーンで研修や育成を行う。
虐待防止研修	各ゾーンの虐待防止委員会が、虐待防止テーマに沿って研修を企画。虐待防止委員会メンバーを中心に所属ゾーンで実施する。

イ 良質のサービスの推進

リスクマネジメントの推進、虐待防止の徹底、接遇マニュアルの徹底について、業務執行理事会でそれぞれゾーン、或いは施設単位で取り組んでいることを確認していた。しかし昨年のステージ桜が丘への苦情を受けて、その取り組みが機能していないことから、次年度は法人全体で学習し取り組むこととした。

(4) 職員の確保に取り組む

ア 人材マネジメントシステムの構築

職員採用計画については、介護職員を動員し就職フェアに参加、希望者に施設見学会を開催した。また、待遇面で公休日数を 2022 年度から 2023 年度までに段階的に 120 日とすることとし、2022 年度は本年度より 6 日増の 114 日とすることを決定した。

イ 職員満足度の向上・帰属意識の醸成

職員満足度・帰属意識調査は、一部施設で実施し法人全体で取り組むことができなかった。また、調査内容も実態把握に適していないので、次年度において調査項目の検討から取り組むこととした。

エ キャリアパスの徹底

施設長、所長個人レベルでの認識を基に必要なに応じて職員に説明はできている。しかし、職員に興味を持たせられる説明ができていないため、将来に向けて計画を立てている職員が少なので、引き続き方法等を検討し進めていく。

(5) 経営基盤の強化を図る

ア 施設、事業所の赤字改善

- (ア) 就労事業収支差額改善については、3事業所の過去10年の互る収支と主材料の仕入れ価格等を調査し、価格交渉、令和4年度の工賃査定を行った。また、新たな事業を模索し、清掃作業や野菜の洗浄、仕分け作業は次年度から取り組むこととなった。その他新規事業の検討、事業収支の分析は次年度持越しとした。
- (イ) 障害者支援施設こくふの利用者確保については、こくふの職員が中心となり相談支援事業所、病院、行政等を定期的に訪問し、こくふの利用状況、日中活動等新たな取り組みを説明し、利用者確保に繋げることができた。

イ 施設整備事業の実施

- (ア) 八流荘建設用地について、赤野地区で宅地の紹介があったが、所有者との交渉が成立しなかった。また、安芸市が所有する赤野地区の土地と現在の八流荘の北部に位置する土地の紹介もあったが、必要面積に満たない、土地への侵入道路が狭いなどの理由から断念し、障害者新施設あきの跡地とそれに隣接する土地の一部を取得し、建設用地とすることに決定した。障害者支援施設あきの建物解体については、建設用地の造成工事に合わせて実施することとし、高知県に届け出た。
新八流荘の型式については高知県と交渉中であり、それと並行して土地の取得、補助金の申請をすることとした。
- (イ) 令和2年度整備事業として建替え事業の完了した、障害者支援施設ステージ桜が丘及び小規模多機能型居宅介護支援事業所南風は、令和3年4月14日に行政関係者、地域の方々、本会役員及び評議員をお迎えし落成式典・内覧会を開催した。それに引き続き令和3年4月30日に移転作業を終え、令和3年5月1日から移転先での事業を開始した。

障害者支援施設こくふ 事業報告

1 事業の総括

会是である愛情・奉仕・連帯を念頭において、「思いやりの気持ちでつなぐこころの和」をスローガンに利用者様の支援を行いました。新規の利用者様獲得のため、通所生活介護サービス実施の体制を整えましたが利用はありませんでした。入所利用者様は積極的な営業活動により目標を上回る利用者様を獲得しました。コロナ禍のため前年度同様、地域とは限定的な交流しかできませんでした。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者確保に努めます。

- ア 積極的営業活動を継続
- イ 通所による生活介護利用者の受け入れ開始
- ウ 新日中活動プログラムの作成

利用者様の確保のため、活動内容を増やした新しい日中活動プログラムを作成して実施。日中活動の充実をアピールした積極的な営業活動を行いました。結果、入所者様は年度内に6名の方が退所しましたが17名の方に新規利用いただいております。

- ア 数値目標を「定期的に営業活動を行い、利用者数を64名にする」として、定期的な営業活動を行い、年度末の在籍数は71名となり目標を達成しました。
- イ 数値目標を「通所の生活介護サービス利用者様の5名確保」として、通所生活介護サービス実施の体制を整えましたが、コロナ禍の影響もあり、利用者様の獲得はできませんでした。
- ウ 数値目標を「参加延べ人数500人」として、日中活動のプログラムの見直しを行い、参加延べ人数6,381人と多くの方に参加いただき、目標を達成しました。

事業計画(2)：地域に開かれた施設づくりを行います。

- ア 地域交流委員会の開設

社会福祉法人の使命の一つである地域貢献の第一歩として、地域住民の皆様と交流を図るための地域交流委員会は開設しました。しかしコロナ禍もあり精力的な活動は行う事ができず、目標として掲げていた「地域住民との良好な関係を構築する」について進展はありませんでした。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設入所	75.0	76.3	74.1	76.0	76.2	79.0	78.0	77.9	78.3	81.9	87.6	87.2	79.0
生活介護	74.3	76.0	74.1	75.8	75.8	78.8	77.3	76.8	77.0	82.0	87.7	87.3	78.6
短期入所	5.0	1.6	0.0	0.0	13.7	50.0	29.0	27.5	8.9	10.5	0.0	0.0	12.2

(2) 年間行事等

- ア 施設の行事
 - (ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力や感受性の向上 ・協調性を養う ・心身のリラックス 	麻雀・映画鑑賞・レクリエーション・ゲーム
運動系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・競技技術を高める 	ボッチャ・水戸黄門体操
学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・感受性を向上させる 	レッツアート(習字、俳句)・視力トレーニング・料理教室・スタディ
音楽 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・スキップやリラックス ・仲間作りや雰囲気づくり ・発声訓練や身体の体操 	カラオケ・リズム音楽
園芸 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・手・指の操作性 ・身体の動き ・観賞、食する喜び 	園芸・生花
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換 ・社会参加 	ドライブ・散歩・魚釣り
美活	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持・心身のリラックス ・意思・意欲の向上・気分転換 	リラクゼーション・ハンドメイド
美食	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換、意思や意欲の向上 	ミニ喫茶・中庭昼食・外部注文昼食

(イ) 年間行事

行事名	実施日	実施場所
コロナウイルス予防接種 1 回目	7/17・7/31	施設内
コロナウイルス予防接種 2 回目	8/7・8/21	施設内
かき氷	8/31・9/9	施設内
秋の法要	10/27	施設内
焼き芋	11/15	施設内
インフルエンザ予防接種	1/16	施設内
クリスマス忘年会	12/8	施設内
節分の豆まき	2/3	施設内
コロナウイルス予防接種 3 回目	2/26・3/5	施設内
春の法要	3/17	施設内
桜の下のコーヒータム	3/30	施設敷地内

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容
預金引出	木曜日に行員が来所、希望利用様の通帳処理を行いました。
買物	水曜日に希望日用品を代行して購入しました。
パンの販売	月 2 回程度、業者が来所してパンを販売しました。
移動スーパー	水曜日に移動スーパーが来所、利用者様が生活物品を購入されました。

イ 地域住民等との交流

例年は、こくふ福祉の村まつりや近隣の小中学校との交流を行っていましたが、コロナ禍のため、すべて参加中止となりました。

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

※三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導		5/26				9/29	10/27					3/23	4回
消火		5/26					10/27					3/23	3回
通報		5/26					10/27	11/24				3/23	4回
地震		5/19				9/29	10/27	11/24				3/23	5回
夜間避難								11/24					1回
水害対応						9/29							1回
救急法													0回
不審者対応													0回

(4) 施設への苦情等件数

受付先	施設内の問題	その他の問題	計
こくふの苦情等の申出窓口	0	0	0
こくふ地区施設運営委員会	0	0	0

(5) スタッフの配置状況（令和3年3月31日現在）

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長（管理者）	1	1	0	生活支援員（相談）	1.6	1	1
サービス管理責任者	2	2	0	理学療法士	2	2	0
医師（嘱託医）	0	0	2	管理栄養士	1	1	0
看護職員	5	5	0	事務員	2	2	0
生活支援員（介護）	31	27	6	用務員・夜間警備員	1.6	1	3
				合計	47.2	42	12

(6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催期間	主催	参加者
高齢者、障害者虐待防止・権利擁護研修	7/15	高知県社協	施設長
施設長実学講座	7/29・9/15 11/1・1/20	福祉施設士会	施設長・統括主事 生活支援主任
相談支援従事者初任者研修	7/29	高知県社協	生活支援員
中堅職員ステップアップ研修	8/3	高知県社協	生活支援員
中堅職員ファーストステップアップ研修	9/15	高知県社協	生活支援員
福祉QC入門講座オンライン研修	9/25	福祉施設士会	PT・生活支援主任
指導的職員研修	10/5～10/6	介護福祉士会	生活支援主任
サービス管理者等基礎研修	10/11	高知県社協	生活支援主任
福祉職場の先輩職員研修	10/29	高知県社協	PT

研修・セミナーの名称	開催期間	主催	参加者
実習指導者講習会	11/10～11/11 12/1～12/2	介護福祉士会	生活支援主任
全国福祉施設士セミナー	11/24	福祉施設士会	施設長
コロナウイルス感染症対策と 両立させるコミュニケーション	12/21	ほけんのリック	看護師長・看護師
改正個人情報保護法のポイントとセキュリティ対策	12/14	ほけんのリック	生活支援員
中国・四国ブロック災害支援セミナー	1/17	高知県社協	生活支援主任
関東甲信越静岡ブロックセミナー	2/4	福祉施設士会	生活支援主任
BCP 作成研修会～風水害編～	2/25	ほけんのリック	生活支援主任
現場力強化セミナー	9/27・10/25 11/22・12/20 2/28	KQN	PT
千葉県福祉施設士会セミナー	3/11	福祉施設士会	サービス管理責任者

※研修会場のコロナ流行によって Zoom にて研修受講

障害者支援施設ステージ桜が丘 事業報告

1 事業の総括

令和3年5月に安芸市西浜に新築移転し、新しい環境でのスタートとなりました。「凡事徹底」をスローガンとし、日常の基本姿勢を徹底しながら、移転後の変化に順応していくこと、新たな取り組みについて全スタッフで共有しました。また、新型コロナウイルス感染症により、事業にも大きな影響を受ける中、利用者様に安心、安全な生活を提供できるよう努めてまいりました。

2 事業報告

事業計画(1)：安定した事業経営

- ア 利用者層を新規開拓
- イ 稼働率を高水準に維持

稼働率は、施設入所支援 86.9%、生活介護 88.8%、短期入所 44.5%と全サービスにおいて目標値を下回りました。

ア 生活介護と短期入所サービスを組み合わせた利用について提案し、利用に繋げたケースがありました。また、相談支援事業所、市町村、特別支援学校を定期的に訪問する等営業活動を行い、特別支援学校の生徒、先生方の施設見学に繋げることができました。

サービス管理責任者、生活支援員（相談）、生活支援主任（介護）が知的障害についての専門知識や、支援体制について学びました。事例をもとに具体的なアドバイスを講師からいただき、知的障害者受け入れを積極的にできる体制づくりに努めました。

イ 稼働率、収支結果について、職員会（毎月）にて情報共有しました。8月には施設入所、短期入所の受入れの方向性について全職員参加による検討会を開催し、今後知的障害者の受け入れを積極的に実施していくことを共有しました。その後、特別支援学校の実習受け入れ、精神病院入院者のショート利用などを各関係機関と家族の協力を得ながら取り組みましたが施設入所にはつながらず、稼働率高水準維持には至りませんでした。

事業計画(2)：移転後の円滑な運営

- ア 変化に起因する課題や問題点
- イ 全部署による検討と改善
- ウ 周知と確認

移転後の円滑な運営の為、旧施設との違いによるハード面や環境面の課題やシステム面の問題点に対して優先順位をつけながら、速やかに対応、解決に努めました。次年度に持ち越しとなった課題もありますが、改善率は92%で目標達成となりました。

一方、令和3年10月にご家族からいただいた利用者に対する不適切支援に対する苦情を受けて、当時の現状把握を基に再発防止策を作成しましたが、職員の退職や異動があり、新たな体制での取り組みについて現場で今一度その課題、対策について話し合い、再発防止に努めております。

障害者支援施設とさ 事業報告

1 事業の総括

関係法令を遵守し、法人の会是を基本理念として、利用者様の人権の尊重と自己決定・自己選択及び自立に向けた支援に努め、利用者様が安心・安全な生活ができる支援を行いました。また、空調等の設備改修を行い利用者様の生活環境整備とスタッフの職場環境整備に努めました。しかし、世界的なコロナウィルス感染症の大流行のため、積極的な地域との交流はできませんでした。

2 事業報告

事業計画(1)：会是「愛情」に基づく接遇技術の向上

ア 会是に基づく支援の説明・指導

イ マニュアル作成

ウ マニュアルによる実践と評価

数値目標を「日々会是を意識した支援実施の自己評価 50%以上」として、会是に基づく支援についてマニュアルを作成して実践しました。チェックシートで4回のチェックを行い2月に自己評価を行いました。結果は日々会是を意識した支援実施の評価は26.7%と目標を大きく下回りました。しかし、時々会是を意識した支援実施の評価は46.7%と約7割以上が会是を意識して仕事に取り組んでいました。会是を意識した支援の実施率を更に上げるため、来年度も継続して実施していきます。

事業計画(2)：20年後の建替えを見据えた設備充実

ア 電話機交換

イ コールシステム入替

ウ 空調設備入替

数値目標を「電話機・コールシステム・空調設備の入替率 100%」として、各設備の交換や入替にあたり、利便性・快適性・拡張性を踏まえ各業者と調整を行いました。結果、電話機交換と空調設備入替は完了しましたが、コールシステムは世界的な半導体不足により実施できなかったため、入替率は66%となりました。実施できなかったコールシステム改修は次年度に実施予定です。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率 (単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設入所	97.1	97.4	97.1	97.2	96.0	97.9	98.8	97.1	97.3	99.2	98.4	95.4	97.4
生活介護	94.8	94.6	96.1	94.1	92.1	94.3	94.6	94.2	94.3	95.3	95.4	94.3	94.5
内													
入所	(95.9)	(96.6)	(97.1)	(97.0)	(95.4)	(97.6)	(97.5)	(96.0)	(96.4)	(99.3)	(98.5)	(95.4)	(96.9)
通所	(89.5)	(84.8)	(90.9)	(79.6)	(75.7)	(77.7)	(80.4)	(85.0)	(83.9)	(75.2)	(80.0)	(88.7)	(82.6)
短期入所	114.2	115.3	95.0	75.8	71.8	61.7	76.6	84.2	63.7	54.0	64.3	69.4	78.8

(2) 年間行事等

ア 施設の行事

(ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力や感受性の向上 ・協調性を養う ・心身のリラックス 	<ul style="list-style-type: none"> ・オセロ・卓球バレー・風船バレー ・かるた・トランプ・ボッチャ・玉入れ ・DVD鑑賞・もぐらたたき・輪投げ ・脳トレボードゲーム・パットゴルフ ・ボーリング・ビーンバッグ・スカットボール
作業 療法	<ul style="list-style-type: none"> ・手指の細かい動作能力を高める ・心身の耐久性を高める ・協調性、思考性、感受性を養う ・意思・意欲の向上 ・認知能力を高める ・自立生活能力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理材料買物 ・調理(いちごパフェ、フルーツポンチ、かき氷風バナナ、茶巾寒天、苺と林檎のパイ、芋ようかん) ・七夕飾り付け・クリスマス飾り ・正月飾り・ひな飾り・個人創作 ・マステアート・シールアート
学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団(社会)適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・協調性を養う ・思考性を養う ・感受性を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・暑中見舞い・年賀状・回想法 ・書道・ぬり絵・カード合わせ ・新聞作り・折り紙・間違い探し ・なぞり書き・かるた・音読 ・個別学習・声の広報・地域学習 ・質問カード・書初め・英語
音楽 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップやリラックス ・仲間作りや雰囲気づくり ・発声訓練や身体の体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞
園芸 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・手・指の操作性 ・身体の動き ・観賞、食する喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物(ベビーキャロット、サニーレタス、いちご) ・栽培(アサガオ、チューリップ、スイセン) ・作物や畑の手入れ・新聞作り ・押し花・収穫物の調理・コケ盆栽
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換 ・社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物・ドライブ・花見
生産 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加 ・協調性や自活能力を高める ・意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りパン販売
機関紙	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ、紙面づくり、送付準備
美活	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持・心身のリラックス ・意思・意欲の向上・気分転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア・ハンドケア・ネイルケア ・ヘアメイク・オーラルケア
美食	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換、意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い・スイーツ等取り寄せ ・会食

(イ) 年間行事

行事名	実施日	実施場所(※備考)
中庭昼食	5/5	雨天のため、中止
ふれあい交流会	5/22(土)	とさホール ※入所のみ
お楽しみ会(アイス)	7/14(水)	ふれあいホール
お楽しみ会(かき氷)	8/11(水)	ふれあいホール

行事名	実施日	実施場所(※備考)
彼岸の法要	9/24	楓の間 ※職員のみ
涼風祭	中止	※コロナ禍のため
新年会	1/12	とさホール
節分豆まき	2/3	とさホール
彼岸の法要	3/18	楓の間 ※職員のみ

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容	対象
預金引出	火曜日に行員が来所、希望者様の通帳処理を行いました。	入所
買物	水曜日に希望日用品を代行して購入しました。	入所
パンの販売	月2回程度、業者が来所してパンを販売しました。	入所・通所
移動スーパー	水曜日に移動スーパーが来所、利用者様が選択して生活物品を購入されました。	入所・通所

イ 地域住民等との交流

例年は、波介小学校との交流会や入学式・運動会・卒業式への参加、高石小学校との交流会、土佐市から始まる MusicStep さん主催のコンサート等に参加していましたが、コロナ禍のため、すべて参加中止となりました。

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導			6/23					11/3					2回
消火			6/23					11/3					2回
通報	4/1		6/23		8/2		10/20	11/3	12/1			3/28	7回
地震	4/1		6/23		8/2	9/1	10/20	11/3	12/1			3/28	8回
凶上			6/23					11/3					2回
夜間避難			6/23									3/28	2回
救急法													0回
水害対応											2/2		1回
不審者対応													0回

※コロナ禍のため、三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止。

(4) 施設への苦情等件数

受付先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	0	0	0
とさ地区施設運営委員会	2	0	2

(5) スタッフの配置状況 (令和4年3月31日現在)

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長(管理者)	1	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	2	2	0	管理栄養士	1	1	0
医師(嘱託医)	0	0	1	事務員	1	1	0
看護職員	3	3	0	用務員	1.2	1	1

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
生活支援員(介護)	33.8	28	7	夜間警備員	1	1	0
生活支援員(相談)	1	1	0	合計	46	40	9

(6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
施設長実績講座	7/29、9/15、11/1 11/24、1/20	Zoom	施設長 施設長補
中堅ステップアップ研修	8/3	高知市	相談
福祉施設士セミナー全国大会	11/24	Zoom	施設長
福祉施設士 QC 全国大会	11/14	Zoom	施設長
虐待防止研修	11/8 12/7	Zoom	施設長
高知県 DWAT 研修	11/19	Zoom	施設長、相談
感染症 BCP 研修	10/22	Zoom	施設長
公益的取組	12/6	Zoom	施設長
個人情報保護法改正セミナー	12/21	Zoom	施設長
安全運転管理者研修	12/2	Zoom	施設長
改正個人情報保護法のポイントといま さら聞けないセキュリティ対策	12/14	WEB	相談
2021 年度中国・四国ブロック災 害支援セミナー	1/24	Zoom	相談
ICT 利活用研修	2/1	Zoom	相談
BCP 作成研修会	2/25	WEB	相談
中堅職員ファーストステップ研修	9/16	高知市	生活支援員
新任職員研修ステップ 1	9/24	Zoom	生活支援員
指導的職員研修	10/5 10/6	高知市	看護師長 生活支援主任
中堅職員ステップアップ研修	10/26	高知市	生活支援員
サービス管理責任者等基礎研修	10/8、11/25、11/26	高知市	生活支援員
先輩職員研修	10/29	高知市	生活支援員
介護技術研修	10/21	Zoom	生活支援員
メンバーシップ研修	10/22	Zoom	生活支援員
中堅職員ファーストステップ研修	12/23	高知市	生活支援員
新任職員研修ステップ 2	1/11	高知市	生活支援員
高知県社会福祉大会	11/24	高知市	生活支援員
新任職員研修ステップ 3	3/10	Zoom	生活支援員

特別養護老人ホーム八流荘 事業報告

1 事業の総括

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、行事や面会などを一部縮小した一年となりました。そういった厳しい状況の中でも、社会福祉事業継続のために新規利用者様の受け入れを止めることなく、積極的な事業運営に努めました。具体的な活動については以下に記載いたします。

2 事業報告

事業計画(1)：八流荘の目指すべき介護の明確化

- ア 職業としての介護をどのように考えているか、全職員を対象とした意識調査実施
- イ 八流荘の目指すべき介護を検討、明確化する委員会の設置
- ウ 目指すべき介護が全職員に周知できるよう、ポスターや冊子などの作成

- ア 事業計画立案後、やながれゾーン介護保険事業所合同で「高齢者虐待防止・身体拘束廃止合同研修会（全4回）」を開催することとなりました。研修テーマは「介護とは何か」を理解できていない状況では研修効果が薄くなることから、意識調査をする時間的余裕はないと判断し、研修の中で「介護とは」を伝えるという手法を取りました。
- イ 取組み手法の変更に伴い、委員会の設置を見合わせました。ただし、1月には八流荘の役職者と専門職部門の代表者で運営チームを発足させ、新たな活動を開始いたしました。施設全体に理念を浸透させるためには、運営チームメンバーの理解と伝える力、実践に導く規範となることが重要という考えのもとに、次年度も引き続き活動を行います。
- ウ 介護の考え方を盛り込んだ「会是に基づく支援マニュアル」の作成に取り掛かりました。会是の理解、介護の考え方、自己選択・自己決定の考え方などを根拠に基づいて記載しました。

やながれゾーン介護保険事業所合同 「虐待防止・身体拘束廃止研修」

- 第一回（7/16.30）
やながれゾーンの目指すべき介護は以下の通り。
「高齢者福祉に携わる私たちの役割・使命とは、利用者様の日常的な権利を守る・代行することで、日常生活を豊かなもの（当たり前）に近づけること。」
- 第二回（10/22.29）
虐待や身体拘束が起こる背景には職場環境が大きく関係している。
悪口・陰口等による職員にストレスがかかる環境。
接遇（言葉使い）の乱れによる専門性の低下。
- 第三回（12/17.29）
契約行為について
介護保険法ではサービス利用側と提供側との間で契約が交わされている。
契約とは債務履行の法的拘束力が発生する。
職員個人の「思い」「考え」ではなく、契約内容に基づいたサービス提供が義務。
- 第四回（2/11.18）
過去三回の研修の振り返り。
土佐厚生会の設立に至った経緯の周知。

土佐厚生会の会是の成り立ちと内容の周知。

事業計画(2)：人財確保

- ア 各団体の開催するイベントへの参加、講習会などへの講師派遣
- イ 各団体との密なコミュニケーションによる介護人材等の情報共有
- ウ ノーリフティングケアの継続
- エ 介護現場の記録支援ソフトの導入

ア 介護人材の情報共有と確保に向けて、積極的に活動をしました。この活動による八流荘への人財採用はありませんでしたが、小規模多機能型居宅介護南風にて介護職員1名の採用につながりました。また、事業計画の具体的活動ではありませんが、これまでのネットワークを活用し、介護支援専門員1名、生活相談員1名、看護師3名を採用することができました。

● 講習会などへの講師派遣

- 城山高校 介護職員初任者研修（平成福祉専門学校委託事業）
- 平成福祉専門学校 介護福祉校内実習
- 介護労働安定センター 介護職員実務者研修・生活援助従事者研修

● イベントへの参加

- 平成福祉専門学校 実習打ち合わせ会
- 高知県社協 ふくし就職フェア
- 安芸市社協 安芸市就職面談会

イ 介護人材関係の各団体とのコミュニケーションを図り人材確保に努めましたが、各団体とも「求職者が少ない」という理由により、今年度は目に見える結果にはつながりませんでした。近年の求職者は公的な機関を利用せず、インターネット上の転職サイトで求職活動をしているケースが多くなっているとの情報もあり、今後の採用活動の参考にする必要があると感じました。

- 高知県福祉人材センター
- 安芸福祉人材バンク運営協議会
- 安芸市ハローワーク
- ツクイスタッフ

ウ ノーリフティングケアを根拠に基づいて実施するために職員アンケートを実施し、職員から上がってきた疑問に対しては委員会にて検討し、月一回の職員会にて回答するという形をとり、ノーリフティングケアに対する理解を深める活動を行いました。

エ 介護記録支援ソフトの導入に向けて活動を行いました。導入に当たってはデジタル化となり大きく業務環境が大きく変化するため、職員の理解が必須と考えソフトメーカーからのプレゼンテーションを計画しました。しかし、新型コロナウイルスの影響によりプレゼンテーションの場の設定に苦慮し、年度末にずれ込み十分な議論や補助金利用には至らず、次年度に見送りました。職員からは一定の理解と導入に向けての好意的な意見が多く確認できたため、次年度は導入に向けた活動を行います。

事業計画(3)：安定的な運営

- ア 入所申込者の状況把握（リスト作成）
- イ 入所判定会の定期開催（1/M）
- ウ 入退所に係る空所日数の短縮化（7日以内）

- ア 入所申込書を精査し申込日や介護度、簡単な状況がわかるリストを作成しました。このリストを基に判定会で検討すべきケースを抽出し、判定会で検討するという流れを作りました。
- イ 入所判定会の定期開催（月一回）と多職種の実践し、入所候補者の定期的な状況把握を行いました。この活動により入所時には各職種がご利用者のことを理解している状況となり、スムーズな受け入れにつながりました。
- ウ 退所から入所までの空白期間を短くし、稼働率を向上させる取り組みを実践しました。目安としていた7日以内の入所に関しては23件中2件にとどまり、結果としては達成ができませんでした。ただし、特養の空床については短期入所の利用などで有効に活用し、ショートステイの稼働率向上に結びつけることができました。

令和3年度稼働率（%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所	95.75	93.51	93.88	95.65	95.93	96.92	98.83	97.33	99.35	97.7	98.21	94.8	96.49
短期	32.0	37.42	26.0	34.52	64.84	58.33	52.26	76.0	78.81	79.03	80.71	82.9	58.56

ホームヘルプステーションやながれ 事業報告

1 事業の総括

令和3年度は二名のサービス提供責任者体制で、利用者の確保、利用者のニーズに対応したサービス提供に努めていましたが、8月にサービス提供責任者1名が退職したことで、当初の事業計画道理には進まなくなりました。訪問スケジュールにも苦慮しましたが、効率的な訪問ルートの見直しをして職員間で協力し合い、利用者に迷惑をかけることなく支援を継続することができました。

12月から2月にかけて施設入所、入院により休止又は終了となる利用者が多くなり、特に訪問回数の多い利用者が終了し訪問件数は激減しました。居宅支援事業所に積極的な営業活動を行うことにより3月には少しずつ回復してきました。

2 事業報告

事業計画(1)：事業計画 専門性を活かした個別援助計画、手順書の作成と実践

- ア 居宅支援事業所のサービス計画に訪問介護の専門性を反映させた個別援助計画を作成する。
- イ サービスの手順書の内容について職員から聴き取りを行い、利用者ごとに見直しと手順書の作成をする。
- ウ 職員会(1回/月)、日々の各職員への情報伝達時(随時)によりサービスの共通認識をする。
- オ 全職員が手順書に沿ったサービス提供と実施の報告を行い、サービス提供責任者が確認する。

- ア 訪問介護員として利用者の立場の課題を目標にしてサービス計画を作成しました
- イ 訪問介護員からの報告を受け、手順書等を見直しをしましたが、新規利用者の実態と計画書との相違があることが多くありました。
- ウ 職員会は毎月開催しましたが、訪問のため時間制限があり、充実した内容にならないケースも出てしまいました。
- オ 手順書に沿った支援の報告は実施報告書と口頭で受けたが不十分で指導を必要と斯塔ケースも見られました。

事業計画(2)：事業計画 職員のスキルアップ

- ア 職員ごとに不得意な技術、高めたい知識、技術の聴き取りをする。(4月)
- イ 事業所全体での研修、各職員の個別研修の年間画を作成する。(5月)
- ウ 研修計画に沿った研修実施
(全体研修3回/年・個別研修3回/年・外部研修1回/年)
- エ 毎月利用者2名についてサービス提供責任者による同行指導を行う。(新規利用者は随時)

- ア 職員からの申出はなく、サービス提供責任者から課題を提案、指導しました。
- イ 年間計画は作成し、事業所内研修は計画通り実施しました。
- ウ 外部研修は申し込みをしたが、人数制限があり参加できなかった。
- エ サービス提供責任者1名となり、訪問との調整がつきにくく、必要時に短時間の同行指導をしました。

小規模多機能型居宅介護事業所 南風 事業報告

1 事業の総括

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ステージ桜が丘との交流や地域との交流や活動が一部できなくなった状況ではあったが、感染症が落ち着いていた時期では感染症対策を取りながら交流や活動ができたと思います。研修体制については、虐待防止や権利擁護等知識を得る機会ができたが、実践が不十分であり今後の課題となりました。令和4年度も継続して研修等の開催を継続して職員に周知するよう取り組んでいきたいと思ひます。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者確保に向けて取り組む

- ア 職員が地域の公民館活動（津久茂町）、地域行事参加による交流を行う。
- イ 職員が民生委員と顔つなぎと情報交換する。
- ウ 利用者が地域資源を活用する、外出ができるように支援をする。

- ア 地域の民生委員に挨拶に伺い、地域等情報交換や連携の依頼をした。公民館活動はコロナの影響により自粛した。
- イ 運営推進委員（民生委員）から近所に住む高齢独居の方への相談があり様子伺いした。
- ウ 散髪や通院の生活支援の中で資源活用ができた。

事業計画(2)：利用者の自己決定、自己選択の支援に取り組む

- ア 家族会にて人権教室実施し家族へアプローチする。家族会2回/年・開催する。
- イ 職員が利用者の自己決定・自己選択支援ができるようになる。
- ウ 内部研修1回/年・外部研修適宜参加する。

- ア 家族会は、9月コロナの影響により中止したが、3月は開催し権利擁護について話合う機会が持てた。
- イ 利用者の意見を聞くしゃべろう会（毎月/1回開催）にて希望のメニュー等聞くことでそれに対する支援ができていた。
- ウ 虐待防止・身体拘束廃止委員会や、やながれゾーン介護保険事業所合同研修・認知症研修等実施ができた。

事業計画(3)：ステージ桜が丘との共生

- ア 利用者が新事業所に慣れ、日常の生活ができる支援をする。
- イ 日々の利用者の交流支援の企画と実施する。
- ウ 合同行事（花火大会・縁日）の企画と実施する。

- ア トイレや居室等施設内の案内や声掛けを行い、安心して生活できるように支援した。
- イ 南風とステージ桜が丘の交流について話し合いができた。
- ウ 花火大会は中止の連絡があり施設内でできることを検討した。また、南風の縁日に、ステージ桜が丘の利用者交流ができた。

在宅介護支援センターやながれ 事業報告

1 事業の総括

コロナ感染予防対策に地域全体が取り組み、地域活動の中止など人との関わりを持つ機会が少なくなった一年となりました。

そんな中、山間地で独居生活を送る利用者から喝水のため飲料水がなくなり困ったとの相談があり、このままでは体調不良、事故など大きなリスクが考えられました。様々な支援を模索しましたが、個人の事情で公的な支援は難しく、八流荘に相談をし、法人から備蓄品の水を提供し緊急事態を回避することができました。他にもいくつか支援の必要なケースもありました。地域の高齢者の支援は一事業所だけでは解決できないことが多々あります。今後も、地域福祉を担う土佐厚生会の事業所として地域の多種多様なニーズに対し、法人内事業所が協働していく必要性を再確認しました。

2 事業報告

事業計画(1)：事業所の周知

- ア ステッカーの作成をして地域の公民館、駐在所や地域活動に参加している方にステッカーを配布する。
- イ 公民館を主に地域の活動に参加している方を把握して直接足を運び事業所の内容や活動を説明し知ってもらう。
- ウ 社会福祉協議会や包括支援センターに赤野地区で会合などがあるかどうかを聞き合わせ、その内容や参加者、開催頻度を把握して、それぞれの会合などへの参加が可能かどうかの検討、調整をして参加する。
- エ 地域ごとの小さな集団について地域で活動をしている方から情報収集を行いその場所へ出向き、交流を通して事業所を知っていただく。
- オ 地域の世話役との情報交換をこまめにして顔の見える関係性を作る。

- ア ステッカー100枚作成し、地域に配布をしました。
- イ 安芸市社会福祉協議会の協力を得て、赤野地区の地域課題を考える懇談会に参加をし、地域の活動に参加している方の把握をしたがコロナ感染予防の観点から、個々に直接会って説明することは控えました。
- ウ 7月、安芸市地域福祉活動計画の赤野地区会議に参加することになっていたがコロナ感染の状況により、延期を繰り返し、2月に開催、参加して協力し合うことを確認した。
- エ コロナ感染予防上、いきいき百歳体操や公民館行事が中止となり、小さな掲仰にも参加できませんでした。
- オ 感染予防上、民生委員の会合への参加は控えました。

就労継続支援B型事業所ウィール社 事業報告

1 事業の総括

利用者様一人ひとりのニーズや想いをくみ取り、利用者様に寄り添った支援を実践しました。就労訓練だけでなく、日常生活支援や、日中の居場所としての役割など、各関係機関やご家族と連携し、その方に合った支援を行い、安定した通所を確保できました。作業部門では、精米、軽作業は前年度より売り上げを伸ばすことができましたが、印刷の落ち込みをカバーすることはできず、対前年度比 98.5%の達成率でした。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者様の生活に寄り添った支援の確立

現在通所されているご利用者 25 名と新たに仲間に加わる特別支援学校の卒業生 2 名の家庭での役割や日常生活を送る上で必要な支援体制を確立します。その方法は以下のとおりです。利用者様が地域において、自立した生活を送ることができるよう、日常生活支援やアドバイスを行いました。

- ア 現状把握と課題の抽出
- イ 個別支援計画に明記し、全職員への周知徹底と実践
- ウ 実践結果を評価し、再目標の徹底

- ア サービス管理責任者が実施したアセスメントを基に日常生活における課題を抽出し、一覧を作成しました。
- イ 各個別支援計画に課題を明記し、支援内容を全職員に周知徹底しました。自治会の新規役員の方には、会の進め方や運営について、家庭で課題のある利用者様には、家族様と連携しながら支援いたしました。
- ウ 6 か月ごとの行うモニタリングや、必要に応じて面談を実施し、評価、再目標の設定を行いました。

事業計画(2)：利用者様への就労支援を実践

利用者様がB型事業所に通所されている意義を確認し、利用者様個々に合った就労支援を実践します。各作業部門での実践内容は以下のとおりです。

- ア 印刷科では、作業の分業化を進め、利用者様のできる作業を増やし、作業効率の向上を図ります。
- イ 編集科では、データ入力作業の効率化を図るとともに、一般就労を希望されている利用者様に対し技能と社会性の習得を目指します。また、在宅ワークができる環境の準備を行います。
- ウ 軽作業科では、新規作業の獲得をし、安定した作業量の提供と利用者様一人ひとりに個別の作業支援を行います。

- ア 印刷科では、個別支援計画を基に作業の細分化を図り、利用者様のできる作業量の確保と配席等を見直し作業の効率化を図りました。
- イ 編集科では、一般就労を希望されている利用者様にA型事業所の見学、テレワーク研修の受講を支援しました。在宅ワークを希望されている利用者様には、補助金を活用し在宅ワーク用のパソコン等一式を準備し、現在週2日テレワークを実施しています。
- ウ 軽作業科では、単発の依頼作業を積極的に受け入れ、取引先から依頼された新工程

にも対応し増収となりました。また、マニュアルの整備や目標設定等を積極的に行い、利用者様の作業効率も向上しました。

事業計画(3)：経営の安定化

- ア 利用契約者 25 名、稼働率 115%以上を確保し、経営の安定化を図ります。また、特別支援学校の実習生の受入れを積極的に行い、今後の利用者様確保につなげていきます。
- イ 年間売上 ¥26,000,000 を達成し、利用者様の工賃向上に努めます。
 - (ア) 印刷部門 年間売上 ¥1,330,000/月×12 カ月＝¥16,000,000
ミス・ムラ・ムダをなくし、利益率向上を図り、担当職員の印刷技術向上に努めます。
 - (イ) 精米部門 年間売上 ¥500,000/月×12 カ月＝¥6,000,000
利益率確保のため、新規商品、新規取引先の獲得に努めます。
 - (ウ) 軽作業部門 年間売上 ¥167,000/月×12 カ月＝¥2,000,000
新規作業を獲得し、作業量と売り上げの増加に努めます。

ア 4月10月に利用者様の確保ができ、利用契約者は28名で、コロナの影響で通所できない利用者様もいらっしゃいましたが、稼働率は113.7%となりました。昨年度は特別支援学校からの実習生の受入れはありませんでした。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/Av
令和3年度	利用契約者数	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	28	28	27.5
	開所日数	20	21	22	22	20	21	22	21	21	22	19	22	253
	通所総数	483	489	521	496	445	457	494	488	484	494	419	483	5753
	1日平均	24.2	23.3	23.7	22.5	22.3	21.8	22.5	23.2	23	22.5	22	22	22.7
	稼働率	120.8%	116.4%	118.4%	112.7%	111.3%	108.8%	112.3%	116.2%	115.2%	112.3%	110.3%	109.8%	113.7%
2年度	利用契約者数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	25	26	24.3
	1日平均	22.2	21.9	22.5	22.3	22.1	20.7	22.2	20.5	21.2	21.2	22.8	23.3	21.9
	稼働率	111.2%	109.6%	112.7%	111.6%	110.3%	103.6%	111.1%	107.4%	106.0%	106.0%	114.0%	116.7%	109.5%

イ 年間売上 ¥26,000,000 を目標としていましたが、約 ¥3,700,000 の不足でした。対前年度も ¥1,140,000 程のマイナスとなっています。原因としましては、精米、軽作業部門は目標をクリアできましたが、印刷部門の落ち込みが大きく、他の部門でカバーできませんでした。今後は、全職員をあげて、営業力の向上と、カバーできる新規作業部門を検討、実施していく予定としています。平均工賃も売上の減少に伴い、利用者様の夏期冬期賞与を減額したこと、新規利用者様の加入、コロナによる入所施設からの通所停止等により、前年より大きく下がりました。

作業部門	作業名	R2年度	R3年度	対前年度比
印刷		15,024,038	13,595,664	▲ 1,428,374
内訳	法人内	1,985,240	2,754,184	768,944
	法人外	13,038,798	10,165,443	▲ 2,873,355
精米		5,655,197	6,482,723	827,526
軽作業		2,003,865	2,170,958	167,093
内訳	ミニパック	229,975	173,731	▲ 56,244
	浜幸	115,705	217,345	101,640
	ポケットティッシュ	111,166	60,419	▲ 50,747
	いりこ	521,878	358,758	▲ 163,120
	南国ミロク	439,543	816,823	377,280
	お茶	388,248	289,081	▲ 99,167
	その他	197,350	228,301	30,951
その他		733,800	26,500	▲ 707,300
	合計金額	23,416,900	22,275,845	▲ 1,141,055
	平均工賃	¥23,615	¥19,746	▲ 3,869

3 その他事業報告

- (1) 障害者生産活動支援事業費補助金を活用し在宅テレワーク用のパソコン等一式、高知県介護福祉機器等導入支援事業費補助金を活用しタブレットを購入、現在営業活動等で使用しています。
- (2) コロナ禍において通常の外出行事等は困難でしたが、春・秋にドライブ外出（6月、10月）、規模を縮小した忘年会（12月）、花見（3月）を実施しました。

就労継続支援B型事業所カトレア 事業報告

1 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識および技能を高める就労支援をしました。会是の「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、『個性と可能性を活かすことが成長への第一歩』をスローガンとし、土佐厚生会の経営理念を念頭に置き、事業計画を達成できるよう職員間で共有を図り、全職員が一丸となって取り組み成果を出せるように努めました。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者様の生活面の自立に向けた支援の確立

(2)：利用者様の就労面の自立支援の確立

- ア 現状の調査を行い、集約分析し目標設定を行います。
- イ 取り組みの手立てを決定し、実践を行い評価します。
- ウ P D C Aの実践ができるように努めます。

利用者様の自立に向けた個別支援計画作成の為、一人1人の利用者様実態表を作成しました。利用者様一人一人が今よりもできる事をひとつでも増やし、豊かな生活が送れるように努めました。生活面の個別支援計画課題達成は67%、就労面の個別支援計画課題達成は60%でした。

(反省・課題)

利用者様の生活面・就労面の自立に向けた支援力向上の取り組みには、個別支援計画を充実させ、職員が個別支援計画に沿った実践を行い、効果を上げる実践力の向上とP D C Aサイクルの実践をしていく必要があります、来年度も継続して取り組んでいきます。

事業計画(3)：就労会計の経営分析と原因究明を行い黒字化に努め、利用者様の工賃向上を目指し、各作業部門が収益率の向上を目指します。

- ア 乾燥工場
乾燥生姜チップの売上や乾燥請負売上を伸ばし、売上目標 14,980,000 円を目指します。
- イ 食品加工
新商品の開発や新規販売先の開拓に努め、売上目標 4,500,000 円を目指します。
- ウ 喫茶
一日平均売上定食数 20 食を目指し、売上目標 2,600,000 円を目指します。
- エ 清掃・空調
障害者支援施設とさの清掃業務と空調清掃を請負、売上目標 1,420,000 円を目指します。

ア 乾燥工場

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、(株)サニーフーズからの注文数が減り、年間売上額は 11,482,386 円と目標額を達成する事はできませんでした。新しい取り組みとして、農福連携の活性化に積極的に取り組み、工場設備の機能を活かし野菜の乾燥請負や洗浄請負を増やすことはできました。

令和3年度 乾燥工場・清掃・空調 売上集計表

	okraチップ	生姜チップ	乾燥請負	洗浄請負	エコ水販売	合計	清掃	空調	総合計
4月			16,500		12,200	28,700	100,000	110,000	238,700
5月					12,000	12,000	100,000		112,000
6月	183,202				12,000	195,202	100,000		295,202
7月	518,400				12,800	531,200	100,000		631,200
8月	518,400				12,000	530,400	100,000		630,400
9月	190,736				12,200	202,936	100,000		302,936
10月					12,200	12,200	100,000	110,000	222,200
11月		894,240		37,750	12,000	943,990	100,000		1,043,990
12月		8,423,584	16,500	27,250	12,400	8,479,734	100,000		8,579,734
1月			39,050	150,561	12,200	201,811	100,000		301,811
2月			33,000	68,231	12,200	113,431	100,000		213,431
3月			121,893	96,589	12,300	230,782	100,000		330,782
合計	1,410,738	9,317,824	226,943	380,381	146,500	11,482,386	1,200,000	220,000	12,902,386
取引先	(株)サニーフーズ	(株)サニーフーズ	旭フレッシュ アサヒマチ芸農 苺氷り本舗	アサヒマチ芸農	ウール社 とさ他		とさ	とさ	
種類	okra	ショウガ	菊芋・苺 ゆず皮	菊芋					

イ 食品加工部

食品加工部の年間売上額は、4,145,632円と目標額を達成することはできませんでしたが、自社商品である粉末袋をリニューアルする事で注文数を増量して下さる取引先ができました。高知県工賃向上アドバイザー事業を活用し、ラベルや商品ポップを作成していただくこともできました。新商品の開発（イタドリ葉茶、パパイヤ茶、キャベツチップ）や新規販売先の開拓に努力しました。農福連携の活性化に取り組み、ピーマンや菊芋の袋詰めを新規軽作業として獲得することで作業種目を増やし、利用者様の作業選択の幅が広がるように努めました。

地域貢献として、土佐市の農家婦人部（土佐旬物クラブ）より依頼があり、ネギ塩タレ製造のために野菜乾燥勉強会をカトレア内で開催し好評を得ることができ、商品開発に貢献することができました。

令和3年度売上（集計）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
軽作業	77,190	94,450	121,900	128,293	122,432	122,300	118,938	89,316	78,015	89,806	65,195	68,182	1,176,017
商品販売	230,718	224,527	84,684	136,153	100,723	96,816	216,006	169,540	335,807	281,234	359,872	382,121	2,618,201
加工請負	18,084	1,000	20,925	0	10,800	52,195	36,512	2,968	24,464	34,483	73,282	76,701	351,414
合計	325,992	319,977	227,509	264,446	233,955	271,311	371,456	261,824	438,286	405,523	498,349	527,004	4,145,632

ウ 喫茶部門

土佐市内の会社（ハカタ貨物）に、お弁当注文配達を獲得することができました。年間売上額は、2,870,556円となり目標達成することができました。

	定食売上	弁当	定食他	アイス	月合計	お米	イベント	総合計
4月	190,850	10,500	3,600	4,940	209,890	6,100	0	215,990
5月	187,550	10,950	1,800	6,240	206,540	9,778	29,000	245,318
6月	227,150	29,450	600	8,710	265,910	2,000	0	267,910
7月	213,950	37,250	1,100	6,760	259,060	9,578	0	268,638
8月	195,800	56,100	600	5,590	258,090	800	0	258,890
9月	178,200	46,000	1,000	4,810	230,010	800	0	230,810
10月	188,650	32,000	400	7,280	228,330	4,100	0	232,430
11月	207,900	27,400	800	4,550	240,650	8,555	0	249,205
12月	205,700	23,100	400	4,940	234,140	800	0	234,940
1月	200,750	28,150	550	4,290	233,740	800	0	234,540
2月	188,100	12,350	600	3,640	204,690	8,555	0	213,245
3月	197,450	17,350	700	2,340	217,840	800	0	218,640
合計	2,382,050	330,600	12,150	64,090	2,788,890	52,666	29,000	2,870,556

(各作業部門運営について)

第3土曜日の利用者様通所日に各作業部門が、作業部会を開催し、前月の売上報告、今後の作業予定、課題や反省点などを報告・発表し、改善点などについての検討を行いました。作業売上がいつでも把握できるように、グラフや1日の取組量の表作成や利用者様で軽量当番を行い、利用者様が理解しやすい環境作りに取り組み、利用者様の作業に対するモチベーション向上に繋がるよう努めました。業務改善にて、利用者様の特性に応じた、作業マニュアルの見直しも行いました。

各作業部門が収益率の向上に取り組み、就労会計の積立金 2,361,700 円を計上することができました。利用者様に期末手当の支給を実施し、平均工賃は 22,046 円となり、前年度より 1,892 円平均工賃を向上することができました。

地域に必要とされる事業所として、土佐市の農家婦人部との交流を図り、野菜乾燥についての知識や技能の勉強会をカトレアにて開催しました。

(反省・課題)

新型コロナウイルス感染症による影響を受け、全体の売上目標額を達成することはできませんでした。各作業部門が収益率を向上し、利用者様の工賃向上に努め、大型機械の維持、整備を行うために就労会計の積立金を計上できるように取り組むことについては、職員に周知する事はできました。今後の課題は、仕入れ単価が上昇していく中で、収益率の確保を継続していく努力と、部署計画の充実や利用者様の就労面の自立に向けた支援については、力量アップが必要なため、来年度も職員一丸となり支援力向上に努めていきます。

エ 清掃・空調

年間目標額の計画通り、売上額は 1,420,000 円計上することができました。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用契約者数	26	26	25	25	26	26	26	26	26	26	26	25	25
開所日数	22	19	22	21	21	21	22	21	21	20	19	23	252
出勤延べ人数	478	402	452	402	423	448	467	423	445	409	370	443	5,162
1日平均	21.7	21.2	20.5	19.1	20.1	21.3	21.2	20.1	21.2	20.5	19.5	19.3	20.48
稼働率	108.6	105.8	102.7	95.7	100.7	106.7	106.1	100.7	106.0	102.3	97.4	96.3	102.4

(2) 年間施設行事等

行事名	実施日	実施場所
カトレア祭り	10/13	カトレア
日帰り旅行	11/12	道の駅かわうその里すさき
新年会・成人の祝い	1/15	カトレア
お花見	3/30	土佐市内・波介川沿い

ア 地域住民等との交流

例年は、障害者支援施設とさ合同の波介小学校との交流会や、高石小学校との交流会、土佐市から始まる MusicStep 主催のコンサート等に参加していましたが、コロナ禍のため、すべて中止となりました。

イ クラブ活動（毎月第3土曜日午後）

クラブ名	内容	実施回数	実施場所
美術	スピリットアート（共同作品）製作・出展、塗り絵、はり絵、画	6回	カトレア
写真	季節の写真、会報誌（スマイル）写真撮影・選択、誕生日カード写真撮影・選択	4回	カトレア 行事实施場所等
音楽	カラオケ、音楽鑑賞、作業中のリラクゼーション音楽選曲、CD再生	4回	カトレア カトレア内作業部屋
映画	DVD鑑賞、DVD選択・DVD再生	6回	カトレア

ウ 係活動

係名	人数	取組みの内容
日直	1人	朝夕のつどい司会、作業予定、曜日・天気の記入
給食	9人	献立発表、献立記入、食器片付け、台拭き、調味料の整理、お茶サーバー準備・片付け
整理・美化	10人	花の水やり、トイレ掃除当番発表、掃除の担当決め・実施、食堂ホールのイス整理
飼育	3人	魚（グッピー、メダカ）の餌やり、水槽の水替え・管理

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導	4/9	5/10	6/10	7/9	8/10	9/10	10/8	11/10	12/10	1/7	2/10	3/10	12回
消火			6/23										1回
通報			6/23										1回
地震	4/9	5/10	6/10	7/9	8/10	9/10	10/8	11/10	12/10	1/7	2/10	3/10	12回
図上			6/23									3/10	2回
風水害対応												3/10	1回

※コロナ禍のため、三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止しました。

地震訓練を毎月工賃支給日に実施する事で、南海大震災に備えた避難について利用者様へ周知ができるよう取り組みました。

(4) 事故状況

月日	場所	職名	状況	対応
6月	カトレア敷地内	運転手	送迎終了後に駐車場へ戻す際、建物に接触	保険にて物損処理

(5) 苦情解決について

カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付の他、毎月1回、利用者懇談会を開催し意見交換などを行いました。苦情相談の投函はありませんでした。

(6) スタッフの配置状況（令和4年3月31日現在）

職種名	所長	サービス管理責任者	生活支援員	職業指導員	運転手	合計
職員配置数	1 (0.5)	2 (1)	1 (0.5)	6	2	10

(7) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
施設長実績講座	7/29 9/15 11/1 1/20	Zoom	所長
HACCP 改訂セミナー	4/19	ちより街テラス	職業指導員
食品衛生講習会	7/28	グランデール	職業指導員
中堅職員ステップアップ研修	8/3	ふくし交流プラザ	職業指導員
サビ管研修	8/26～開催月	こくふ他	サービス管理責任者
新型コロナウイルスに対応したBCP策定講座	10/22	Zoom	サービス管理責任者
人事考課者研修	10/15、3/24	ちより街テラス	所長
先輩職員研修	10/29	ふくし交流プラザ	職業指導員
高知県 DWAT 研修	11/19	ふくし交流プラザ	所長
5S 活動で業務改善	12/20	Zoom	サービス管理責任者
虐待防止権利擁護研修	7/15、 11/8、12/7	Zoom	サービス管理責任者
とさゾーン 虐待防止委員会勉強会	12/15	桜の間	全職員
発達障害者就労支援セミナー	2/18	ソーレ	職業指導員

就労継続支援B型ワークセンターファースト 事業報告

1 事業の総括

利用者様一人ひとりのニーズや想いをくみ取り、嶺北地域で自立した生活を送ることができるよう、日常生活支援と働く場、日中の居場所として就労支援を実践しました。利用者様、家族様、各関係機関と連携を強化し、目標であった稼働率90%以上、年間売上目標¥2,400,000を達成することができました。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者様の自立に向けた支援の確立

- ア 利用者様個々の健康に配慮し、生活リズムを整え安定した通所ができるよう日常生活支援と就労支援を行います。
- イ 利用者様個々のニーズを把握し、その方にあった就労支援を行います。
- ウ 上記、ア・イの手順
 - (ア) 現状把握と課題の抽出
 - (イ) 個別支援計画に明記し、全職員への周知徹底と実践
 - (ウ) 実践結果を評価し、再目標の設定

- ア 利用者様とのコミュニケーションを密にし、日々の体調管理や通院後の聞き取り等を行い、安定した通所ができるよう支援を行いました。
- イ 利用者様個々の就労と日常生活上の課題やニーズを把握し、それぞれに合った支援を実践しました。
- ウ 相談支援事業所と連絡を取り合い、6カ月ごとに実施するモニタリングにて評価し、再目標の設定を行いました。

事業計画(2)：経営の安定化

- ア 利用者様の確保を進め、利用契約者12名、稼働率90%以上を維持し、施設会計の黒字化を目指します。
- イ 毎月¥200,000以上の売上を達成できるよう売上管理を徹底し、就労支援事業の収益増加と利用者様の工賃向上を実践し、就労会計の黒字化を目指します。各作業売上の内訳は以下のとおりです。
 - (ア) 軽作業 ¥140,000/月 × 12カ月 = ¥1,680,000
 - (イ) 印刷 ¥47,000/月 × 12カ月 = ¥564,000
 - (ウ) その他 ¥5,000/月 × 12カ月 = ¥60,000

- ア 4月に1名の利用者様を確保し、利用契約者数12名、年間稼働率91.5%で目標をクリアできました。通所の安定しない利用者様には、各関係機関やご家族と連携し、通所を促す支援を行いました。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和3年度	利用契約者数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	開所日数	20	21	22	22	20	21	22	21	21	22	19	22	253
	通所総数	188	203	204	204	174	195	206	196	208	197	151	188	2314
	1日平均	9.4	9.7	9.3	9.3	8.7	9.3	9.4	9.3	9.9	9	7.9	8.5	9.1
	稼働率	94.0%	96.7%	92.7%	92.7%	87.0%	92.9%	93.6%	93.3%	99.1%	89.6%	79.5%	85.5%	91.5%
2年度	利用契約者数	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10.8
	1日平均	8.3	8.2	7.9	7.7	8.1	7.8	8.2	9.4	9.3	9	9.2	9.3	8.5
	稼働率	82.9%	81.8%	78.6%	76.8%	80.5%	77.6%	81.8%	93.8%	93.3%	89.5%	92.1%	92.6%	85.0%

イ 売上目標は毎月¥200,000以上の¥2,400,000を目標としていましたが、達成率101.3%、対前年度も110%でクリアできました。平均工賃は令和3年度より夏期冬期賞与の支給を開始し支給総額は増加しましたが、2年度は期末手当（一時金）の支給額が多かったこと、早退や遅刻での通所の方が多く作業時間が減少した利用者様がいたことから前年度より下がったと思われます。

作業部門	取引先	R2年度	R3年度	対前年度比
印刷		518,665	706,930	188,265
内訳	大豊町役場	315,920	456,280	140,360
	その他	202,745	250,650	47,905
軽作業		1,765,868	1,753,910	▲ 11,958
内訳	ミニパック	148,669	166,564	17,895
	末広	174,958	139,823	▲ 35,135
	碁石茶協同組合	321,335	288,832	▲ 32,503
	ゆとりファーム	85,000	116,370	31,370
	ヤマセン	124,650	403,900	279,250
	とさちょう物語	78,750	148,803	70,053
	農工センター、道の駅清掃	240,000	345,000	105,000
	その他	592,506	115,729	▲ 476,777
その他		22,500	75,780	53,280
合計金額		2,307,033	2,536,620	229,587
平均工賃		¥13,144	¥12,087	▲ 1,057

3 その他事業報告

- (1) 作業量の少ないときは、大豊町主催のいきいき元気運動教室への参加やウォーキング、調理実習等を行い、利用者様の健康や日常生活に役立つ支援を行いました。
- (2) 大豊中学校生徒会主催の「クリーンアップおおとよ」（7月雨天中止、12月開催）に利用者様3名、職員1名で参加し、大杉駅の清掃を行いました。
- (3) 3月、県の生産活動拡大支援事業補助金を活用し、非接触赤外線検温計、空気清浄機等を購入し、施設整備を行いました。

障害者福祉ホームコーポラスこくふ 事業報告

1 事業の総括

利用者様が地域において自分らしく安心安全に生活できる環境の整備と日常生活支援を行いました。また、突発的に発生した修繕にも迅速に対応し、日常生活に影響が起これないように実施しました。経営面では、7月以降利用者様の確保が進まず、満床での運営ができませんでした。

2 事業報告

事業計画(1)：利用者様が住みやすい環境の整備

ア 利用者様が自分らしく健康で快適に生活ができるように、居室にウォシュレットの設置や老朽化に伴う突発的な修理が増えてきているため、過去の修繕履歴や今後修繕が発赤しそうな設備を洗い出すなど、環境の整備及び管理を徹底していきます。

イ 休日に時間を持て余している利用者様が多いため、余暇活動の充実を図り、利用者様の休日の過ごし方を見直します。

ア 2年計画で実施した利用者様居室トイレのウォシュレット設置が完了しました。

イ 余暇活動の充実を図ることを目標としていましたが、コロナの影響もあり、バーベキュー大会やイベントへの引率等は実施できませんでした。

事業計画(2)：利用者様の確保を進め、安定した経営体制を確立します。

ア 新規パンフレットの作成や南国市公用封筒への広告掲載等を行い、広報・営業活動を積極的に実施し、新規利用者様、待機者の確保に努めます。また、退所予定者には転居先や環境変化への対応を行います。

イ 服薬管理や定期検診への支援を行い、疾病の早期発見早期治療に努め、長く施設生活を送ることができるよう支援します。

ア 新規パンフレット作成や南国市公用封筒への広告掲載を行い、広報・営業活動を実施し、年間3組の見学者がおりましたが、新規利用者様の確保はできませんでした。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
R 3 年 度	利用契約者数	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	111
	稼働率	100%	100%	100%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	92.5%
	入退所先	在宅より			こくふへ									±0
2 年 度	利用契約者数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	稼働率	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
	入退所先													

イ 毎週お薬カレンダーへのセットや通院への対応・確認を行い、利用者様の健康管理に努めました。コロナワクチン接種も全利用者様が3回目迄終了しています。

3 その他事業報告

- (1) 地震、水害、火災の避難訓練を定期的に行い、災害時の備品及び備蓄品の入替えを実施しました。
- (2) 週1回の買物支援を毎週実施し、大型連休前後には臨時での買物支援を実施しました。

相談支援センター アルペジオ 事業報告

1 事業の総括

会是である愛情・奉仕・連帯の精神と相談支援専門員としての自覚をもち、「思いやりの気持ちでつなぐこころの和」をスローガンに利用者様の意思及び人格を尊重し、利用者様の立場に立った支援を心がけました。

また、高知県内の相談支援事業所の数が減少するなか、可能な範囲で利用者様の福祉サービス利用について、支援を行いました。

2 事業報告

事業計画(1)：相談支援専門員として業務上必要とされる知識やスキルを高めていきます。

ア 利用者様やそのご家族とのラポール形成に努め、利用者様のエンパワメントを大切にした支援を行う。

イ 社会資源の活用、関連機関やサービス事業所等との連携に努める。

ラポール形成の手法とエンパワメント重視の支援について、月一回の学習会を行うことで相談支援専門員の資質向上に努めました。コロナ禍のため積極的な社会資源の活用や連携・協働は実施できませんでしたが、南国市主催の相談支援事業所連絡会に参加するなど、関係機関との連携に努めました。

事業計画(2)：サービスの移行支援等をスムーズに行います。

ア 年齢や状態の変化を把握し、スムーズなサービス変更手続きを行います。

利用者様一人ひとりの年齢や状態の把握に努め、必要なサービスをスムーズに受ける事ができるように支援を行いました。利用者様 156 名に対し、モニタリングを月平均 27 件年間 324 件実施、サービス等利用計画更新を月平均 4.7 件年間 57 件実施しました。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率 (単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
モニタリング	17	28	27	32	34	24	17	28	27	32	34	24	324
計画更新	2	7	6	2	6	3	2	5	3	6	4	11	57